

E-27 山梨県の農家における生活と意識の一般傾向
お茶の水女大家政 教原香代子

目的 従来社会学、人類学、家政学等の分野で研究成果があげられてきた家族について現実の家庭運営に多く視点を当てることにより問題追求をめざす。その為前近代化社会の慣習を温存する家族について経営及び家存立に關する実態と意識の分析を行う。現代社会におかれた農家の経営については主に経済的側面と家族間の共同の実態を明らかにしあわせて農家の属性である家、祖先、継承等の意識の現状を把握することにより農家の総合的な理解をめざす。

方法 山梨県の県立高等学校5校において農家の生徒を無作為に抽出しその家の世帯主にアンケート用紙を記入してもらった。1. 農業の専業別 2. 家計の世代間共同 3. 農業近代化資金の借入状況 4. 経営責任の所在 5. 経営相談の相手 6. 農業継承の理由その他の実態に關した質問の他に 1. 稲作についての意識 2. 希望栽培作物 3. 後継者希望 4. 祖先への意識その他の意識に關する質問を行った。サンプル数口合計251であり、結果は単純集計により百分率を出した。全体傾向の他に風土上に地域差のある4地域の比較を行う事により特質を考察した。

結果 農業の専業別割合について山梨県全体の50年の傾向に比で専業農家が2.6倍、才2種兼業農家が1/4であり純農村的性格の強いサンプルである。全体の傾向として40%が農業近代化資金の借入をし60%は古い祖先を意識している。農業及び家の後継者希望は75%と高いが世帯主の後継理由の27%は農業を行う意思である。夫の地位は経営及び家の代表にあり妻の地位は経営の相談相手及び家計の責任にある。親世代の地位は純農村地域において家計及び経営について現世帯主世代との共同にある。